

地域文化創造機構ニューズレター

Institute for Regional Culture Development Newsletter

Vol. 13

2015.9.24

活動報告

トピックス 1

普代村の「村づくり支援プログラム」スタート

地域文化創造機構教授 副機構長
豊島 真介

追手門学院大学が今年4月、連携協力協定を結んだ岩手県普代村への「村づくり支援プログラム」が8月24日からいよいよ稼働しました。



観光客誘致の目玉、陸中海岸の絶景

地域創造学部1年の学生2人、山本博史・地域創造学部副学部長、豊島真介・地域文化創造機構教授、事業補助いただいている日本財団から古川秀雄学生ボランティアセンター常務理事の計5人が現地入り。村が宿泊施設に改装した自然体験学習施設に寝泊まりして、8月30日までの1週間、村の抱える課題解決策を探るために村内を視察し、普代中学校へのスクールボランティア活動も展開しました。追手門学院大学は村が一番の課題としてあげる「人口減少対策」について、来年3月に再び現地入りして、学生たちから具体的な提案をプレゼンする予定です。

1週間の滞在中のハイライトは27日に行われた村の課題説明。中村克成・地域創生室係長が、平成25年度の普代村の一般会計決算が46億7千万円、



地域おこし協力隊員の畑を見学する学生たち

うち14億円は震災復興で膨らんでいることや、普代村の人口が1965年の4,796人を最高に年々減り続け7月末で2,864人。「この人口減少対策が最大の課題」と説明しま

した。また、東日本大震災による津波襲来でも、防潮堤、水門が村民の命を守り、村内では死者がゼロだったこと、その代りメイン産業の漁業への打撃は大きく、やっと復興してきたことなどの説明を受けました。この課題説明を地元の岩手日報が取材。翌28日付の地域面で「大阪の大学生 普代に滞在、課題探る」と大きく報道されました。

この日は、今年1月に着任した地域おこし協力隊員の畑も見学。さらに津波を防いだ普代水門など主要施設も見て回りました。引率教員もこの日と前後して、村の今後の産業振興のヒントを探るために村内を視察。陸中海岸の遊歩道な



街中で中野流鶺鴒七頭舞を披露する普代中学校の生徒たち。後方はまつりの華、上組の山車

どの観光施設や、町が打ち出している「北緯40度の村」のシンボル塔などを巡りました。

また、28日からは3日間の日程で「ふだいまつり」がスタート。学生2人は普代中学校の生徒たちがメインストリートで踊る「中野流鶺鴒七頭舞」の先頭

に立って祭りを盛り上げました。

4月の協定締結後、7月23日には普代村役場の実働部隊7人が連携考房童子を訪れて、地域文化創造機構のメンバーと意見交換。そのうえで今回の支援プログラム稼働となりました。普代村からは11月の將軍山祭に産品が出品される予定です、今回参加した学生2人が売り子となって来場者に販売します。

学生たちが「茨木童子まつり」を盛り上げました！

茨木童子、京都に還る！京都凱旋狂言会のPRもしました

教育支援課
(地域連携担当) 八瀬林 昌雄

9月6日(日)、茨木市商業団体連合会・市民活動推進屋主催の茨木童子まつりに追手門学院大学の学生約16人が参加し、まつりを盛り上げました。今回の茨木童子まつりは、「茨木の3大学がそろい踏みでパワーアップ！」と銘打ち、企画段階から本学学生(経営学部の村上ゼミ生、地域創造学部の河合ゼミ生)、梅花女子大学、立命館大学学生が会議に参加し種々のアイデアを出し合い、茨木市商業団体連合会をはじめとするメンバーとともに創り上げました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、村上ゼミ生がイチゴ味、レモン味など3種類の「カラフル綿あめ」、河合ゼミ生が「フランクフルト」の出店を担当し、まつりを盛り上げました。いずれも目標を上回り、「カラフル綿あめ」約100本、「フランクフルト」約250本の売り上げとなりました。他大学の学生、商店街の人たち、当日の参加者等と交流もあり、普段の授業では味

わえない貴重な体験をしました。

ステージでの催しもあり、追手門学院大学地域文化創造機構から、「茨木童子、京都に還る！京都凱旋狂言会」のPR。豊島副機構長、学生5人、いばらき童子(茨木市のシンボルキャラクター)の着ぐるみが、10月12日(月)、京都の金剛能楽堂で開催する大学創立50周年記念事業の狂言会について、これまでの(公財)茨木市文化振興財団との取り組み紹介も含め、アピールしました。



フランクフルトとカラフル綿あめ販売中

若さ躍動 第2回追手門ダンス表現フェスティバル

地域文化創造機構教授 副機構長
豊島 真介

第2回追手門ダンス表現フェスティバルが9月19日(土)午後、茨木市のユーアイホール大ホールで開かれました。若い人たちにジャンルを、年齢を超えた多様なダンス表現に触れて、刺激を受けてもらおうと開催しているもので、中学、高校生14グループが参加。若さあふれるパフォーマンスに700名を超える観客は大きな拍手を送りました。

開演前の約30分間、近藤良平さんの振付によるフラッシュモブが、会場前の“大階段広場”で、参加中・高生約100人により行われ、フェスティバルを大いに盛り上げました。

午後2時からの第1部作品発表に参加したの

は大阪府内の中高校生のダンス部が中心。32人から2人までで、軽快な曲に乗ってヒップホップ、ジャズダンス、チアダンスを披露。最後に追手門学院高等学校表現コミュニケーションコース2年生全員27人が過去と未来に続く「みちのり」に対する思いを込めて踊りました。目をきらめかせて踊る集団ダンスシーンは迫力満点でした。

第2部では、追手門学院高等学校表現コミュニケーションコース1年生たちと、最高年齢75歳のおやじダンサーズ「ロスホコス」とが共作したダンスも披露されました。おやじたちの熱演に拍手がわきました。

この後、NHK朝ドラ「てっぺん」オープニングの振り付けを担当したダンサー、近藤良平さんが登場。コミカルなパフォーマンスに拍手と笑いがわきました。近藤さんは生徒たちに「紆余曲折はあるかもしれないけれど、ずっとダンスを続けてください」と励ましました。最後は近藤さんの振り付けで参加者、観客全員で踊り、会場はわきにわきました。



追手門学院高等学校
表現コミュニケーションコース2年生の踊り

お問い合わせ

地域文化創造機構 ニュースレター

追手門学院大学 地域文化創造機構 「連携考房 童子」
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202 (阪急茨木市駅前「Socio-2」2階)
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp

発行 / 追手門学院大学 地域文化創造機構